

## 「今がその時である」(2)

ヨハネ 4章23節

～あなたがたは何を見に荒れ野に行ったのか～



兄弟姉妹の皆様、

寒さが続いています、いかがお過ごしでしょうか。日々、神様から与えられた使命に励んでいらっしゃると思います。

2月に入りました。2月には主の奉献をはじめ、福者ユスト高山右近殉教者、聖アガタおとめ殉教者、聖スコラスチカおとめ、聖チリロ隠世修道者 聖メトジオ司教、聖ポリカルポ司教殉教者の祝日や記念日があります。そして2月22日は灰の水曜日となっています。おとめや殉教者の祈りに支えられて、信望愛を身につけて聖霊の導きによって2月を最後まで無事に主と共に過ごしましょう。今回も1月掲載の「今がその時である」の続きとしてゆっくりとお読みください。

十字架の聖ヨハネが言うように、私が神と出会う本来の場所は霊魂であって、物理的な場所ではありません。同時に、神は場所に縛られることなく、一人ひとりが最もよく信仰心を目覚めさせるにはどうすればよいかご存じです。形や方法へのこだわりを捨て、「何よりもまず、神の国と神の義とを求めなさい。」(マタイ 6.33) そのために、妨(さまた)げとなるものを退ける意味でカルメルにおいては、沈黙や砂漠、暗夜が大切なものとなります。なぜ、大切なのかと言えば、愛の状況で生きるために必要なものだからです。愛がなければ、ただ黙っていても、それはヨハネの言う沈黙ではありません。心の中は嵐ということもあります。イエスが来られて何千年経っても、人間の罪はこの世界を依然として荒れ地、荒れ野にしています。その荒れ野を夜の暗闇が覆います。それは神を失った暗さであることを私達は知っています。「私は世の光である」と言われたイエスと共に、父なる神を霊とまことをもって礼拝するものとならなければ、私達の中に本当の光が輝くことはないでしょう。しかし、光そのものであるキリスト、復活したキリストと共にあるならば、たとえこの世が暗闇であっても、私達は闇の中に留まっていないでしょう。地上の旅は、荒れ野の旅そのもの、生きている限りこれを避けることが出来ません。思いがけないことの連続でしょう。その中でいくたび悲しみの涙を流すことでしょう。

それでも、「大丈夫、主は私達と共におられ、ともに歩んでくださる」ということを教えるため、キリストは地上の最も悲惨な状況に生まれ、地上の最も悲惨な者たちと、初めから終わりまでともに生き、その道を歩んでくださいました。この方がおられる限り、地上の死も、闇ではないことを私達は知っています。愛の完成に向かって私達は歩んでいるのです。大切なことは、困難や苦しみ悲しみがなくなるのではなく、私達が地上で体験する人生の歩みのすべてが神の愛のもとに置かれていること。これを知ることによって与えられる平和、そこに至るためのプロセスが大事なのです。神は自由に与え、自由に奪い、自由に取り去ることを通して私達を導きます。それでも、「何があっても大丈夫」という信頼関係がなければ恐れと不安は消えません。

十字架と復活によって示された神の愛、その中に私達の人生のすべてが置かれていることを私達は認識しているのでしょうか。私達の小さい思いではなく、人の思いを超えて導いておられる神に、いどこにあってもすべてを委ねる。これこそが、教会の中における私達の大切な使命です。形や方法、枝葉の部分にこだわって、福音の大切なメッセージを見失ってははいけません。律法学者やファリサイ派のように生き方を極めたところに福音の目的があるわけではありません。罪人、娼婦、徴税人として断罪され、社会から除けものとされた人たちが、イエスとどのように出会い、イエスに触れ、イエスの中に見出したものが何であったのかを知ることによって、私達は福音の原点に立ち戻ることが出来ます。

不安とおそれの中にあつたこのような人々にイエスは何を語ったのでしょうか。イエスを裏切り、見捨てた弟子たちに復活の主は何と語ったのでしょうか。それは「あなたがたに平和」という言葉でした！そこから教会が始まったのです。そういう体験を重ねる日々の歩みの中で、心の扉を開いて、たとえ環境は変わらなくても、いや、むしろ以前よりも悪くなったとしても、それでも「この方と共に歩んでみよう」という思いが与えられるなら、その人々の痛みの体験を通して、確かに教会は日々前進して行きます。私達が地上の荒れ野に遣わされているとしたら、そこには大きな意味があると思います。「あなたがたは何を見に荒れ野に行ったのか」(マタイ 11.7) というイエスの問いかけをどのように受け止めて日々を生きているのでしょうか。

イエスは、私達一人ひとりがこのような神との関わりの中で生きて欲しいと思っておられます。そして今日も語りかけておられます。「あなたがたは何を見に、ここにきたのか」この問いかけに、「主よ、私はあなたを見出すため、あなたに触(ふ)れるために、ここに来ました」と答えることのできる者は幸いです。イエスは、私達の周りにある、あらゆる妨げや壁を打ち破って、私達の目の前に来てくださいました。今まで私達は、イエスが目の前にいてくださったのにそれに気付かず、自分の事、隣人の事しか見ていませんでした。イエスを見る、そしてイエスの言葉を聞く、それがイエスによってもたらされた新しい時代を生きる私達のなすべき大切な事です。そして、最終的に私達は、十字架の聖ヨハネが言うように「人生の夕べに、あなたは愛について問われる」ということになるのです。

今、私達が体験しているすべての事が、神との出会い、友情、信頼、そして愛を深める大切な恵みの出来事となりますように。

2023年2月

カトリック上野毛教会 主任司祭  
ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.